

令和2年度 学校評価報告書 (目標設定 実施結果)

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (2月26日実施)	総合評価(3月22日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	○新学習指導要領を踏まえ、キャリア教育の視点による小中高一貫した教育課程の編成と、人権の視点に立った教育実践を推進する。	①教育課程プロジェクトチームを中心として、カリキュラムマネジメントの視点で教育課程を再編する。 ②教員の人権感覚を高め、自他の大切さを認めることのできる授業を実践する。	①新学習指導要領の理解を深め、単元配列型の「年間指導計画」を作成し、主体的・対話的で深い学びの実践を推進する。 ②教職員対象の人権研修会を実施するとともに、「授業デザインチェックリスト」を作成し実践する。	①単元配列型の「年間指導計画」を学部ごとに作成し、各教科横断的なつながりを進め、主体的・対話的で深い学びの実践を深めることができたか。 ②教員の人権意識を高め、「授業デザインチェックリスト」を活用した授業を展開し、実践を通してチェックリストの内容の改善や活用を検証することができたか。	①各学部単元配列型の「年間指導計画」を作成したことで、各教科の横断的なつながりを確認することができた。研究授業を中心に「主体的・対話的で深い学び」の実践を進め、授業改善につなげた。 ・各学部：年次研修者の研究授業を実施し、授業の振り返りにより授業改善に取り組むことができた。 ・研究・研修チーム：全職員を小グループに分け、授業のビデオを視聴し、付箋紙を用いたワークショップ型の校内授業検討会を実施した。 ②月ごとに人権テーマを掲げ、外部サイト等を活用し人権について考える研修を全職員で実施した。各自が感じたことは、「人権の樹を育てよう」と題して、葉型の感想用紙に記入後台紙に添付、職員間で共有することができた。 ・研究研修チームを中心に、「授業デザインチェックリスト」の素案を作成することができた。	①単元配列型の「年間指導計画」を見直し、教科横断的なつながりが明確にわかるような工夫が必要である。 ②人権教育の視点を授業に反映し、年間計画を立案する。 「授業デザインチェックリスト」を完成させ授業実践の改善・充実を図る。	<保護者の評価> ・授業の振り返りによる授業改善(肯定的評価95%) ・キャリア教育を意識した教育実践(肯定的評価95%) ・教員の専門性(肯定的評価92%) <保護者の意見> ・コロナ禍で参観がなかった。 ・授業が見たかった。 <学校運営協議会意見> ・横断的なつながりを分かりやすく「見える化」する対策が必要。 ・教科の枠を超え、地域特性を活かした学習を設定できるようになるかが重要。チェックリストを使って自己評価だけでなく、研究授業などで他者評価もして自他の評価を比較するとよい。	①全学部が「年間指導計画」の書式を見直し、単元配列型の年間計画を作成することができた。教科横断的なつながりがわかりやすい提示方法の検討が必要である。 ②各月人権テーマを設け、研修・研究チームを中心に教員の意見をまとめ、教員間で共有することができた。人権課題を「年間指導計画」に位置付けるとともに、「授業デザインチェックリスト」を作成し、活用方法を明確化する必要がある。	①今年度新たに作成した単元配列型の「年間指導計画」の書式をさらに見直し、学部間の連携が図れるようにするとともに、人権課題を「年間指導計画」の中に位置づける。 ②次年度以降の研究へのスムーズな移行に向け教育課程チームおよび各学部と連携して研究をすすめる。「授業デザインチェックリスト」を通して課題を学年間で共有し、授業改善に役立てていく。
2 児童・生徒 指導・支援	○一人ひとりの教育的ニーズに応じた指導・支援を組織的に行う。 ○交流および共同学習を通して、共に成長することを目指した教育活動を実践する。	①専門職と連携し、児童・生徒の特性を適切に把握し、指導・支援に活かす。 ②地域や近隣小中学校、高等学校との交流、共同学習を継続・発展させる。	①本校の児童・生徒に適切なアセスメントを実施し、個別教育計画に活かす。 ②居住地交流や学校間交流を継続し、その様子を地域や保護者に伝えるとともに、近隣学校との新たな交流・共同学習の機会を模索する。	①アセスメントを実施し、実態に即した具体的な指導・支援を個別教育計画に活かすことができたか。 ②居住地交流や学校間交流等の様子を、地域や保護者に広く発信する手段を確認することができたか。新たな交流・共同学習に取り組むことができたか。	①専門職、コーディネーター、支援連携チーム員が協力して「太田ステージ」を中心とした「アセスメント研修会」を全職員に実施した。その後各教員が実際に児童・生徒にアセスメントを実施し、アセスメント結果を個別教育計画の目標設定や教材作成に活かすことができた。 ②各学校と連絡を取り合い、コロナ禍でも可能な交流の仕方について互いに案を出し合いながら検討した。東本郷小学校とは、手紙や作品を通して交流ができた。新栄高校と分教室も行事交流ができた。	①アセスメント結果を各教科の学習のねらいに反映させるようにする。太田ステージ段階別教材をデータ管理や見本陳列等により整理する。 ②コロナ禍での状況を踏まえ東本郷小、東鴨居中、神奈川総合高校、新栄高校との交流を次年度も引き続き工夫していく。	<保護者の評価> ・アセスメントを踏まえた個別教育計画の作成(肯定的な評価95%) ・他校との交流、共同学習、関係機関との連携(肯定的評価64%) ・センター的機能の役割(肯定的評価79%) <保護者の意見> ・授業参観がなく学校の様子がわからない。休校中の対応を充実させて欲しい。 <学校運営協議会意見> ・コロナ禍で他校等との交流に制約を受けたことはやむを得ない。オンライン化は取り組むべき課題である。	①「アセスメント研修会」を全学部で実施した。その後各教員が実際に児童・生徒にアセスメントを行うなど主体的に取り組むことができた。教材のデータ管理方法の検討が必要である。 ②コロナ禍でもできることを検討し実施した。各学校と連絡を取り合い、今後の交流の方法について模索する必要がある。	①「アセスメント研修会」を新転任者や希望者に実施し、アセスメント結果を個別教育計画に活かすことができるよう専門職やコーディネーターと連携していく。 ②コロナ禍での状況を踏まえ、オンライン等も視野に入れ、交流の具体的方法について工夫していく。
3 進路指導・ 支援	○児童・生徒一人ひとりの将来の生活の充実を目指し、自立と社会参加に向けた進路指導・支援を行う。	①小学部段階から将来の生活を見据えた系統的な学習を積みあげる。	①卒業後の生活に必要な生きる力の理解を深め、発達段階に合わせた学習内容や方法を整理・精選する。	①児童・生徒の将来の生活をイメージし、卒業後の自立と社会参加に必要な学習を精選することができたか。 ②小学部・生徒の将来の生活をイメージし、卒業後の自立と社会参加に必要な学習を精選することができたか。	①・小学部：高等部卒業後の「生きる力」が系統的に積み上げられるように「小学部指導基準表」を作成・共有し、学習内容や方法を精選することができた。 ・中学部：「清掃」の時間を設定し、学年ごとに取り組んだ。 ・高等部：面談は進路担当も参加し、家庭生活、学校生活、現場実習の評価を基に保護者と今後の課題や目指す力の共通理解を図った。 ・分教室：進路情報提供や進路決定に関わ	①卒業後の生活に向け、小中学部の段階から、外部機関との関係づくりを進める。計画相談や基幹相談の機能など、教育相談コーディネーターと連携しながら情報提供を行っていく。	<保護者の評価> ・卒業後を見据えた進路学習(肯定的評価94%) ・進路に関わる丁寧な情報提供(肯定的評価92%) <保護者の意見> ・小学部からの学習を継続し、自立や就労へのステップを獲得したい。 ・高等部でも小・中のような	①各学部で卒業後の生活を見据えた学習内容を検討・精選することができた。各学部の実態に合わせ、さらに学習内容の精選を進めていく必要がある。また、一人ひとりの通学方法の検討を進め、	①校内外の様々な人材や機関と連携し、小中学部の段階からその子どもの卒業後の自立をイメージして支援できるようにしていく。

	視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価	総合評価(3月22日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等	(2月26日実施)	成果と課題	改善方策等
			②進路や福祉制度の情報を保護者に効果的に提供する。	②進路の手引き等を活用し、小中高各段階に合わせて保護者や生徒に必要な情報を発信する。	②教員間で進路決定までの流れを共通理解し、保護者や生徒に必要な進路情報の提供により、一人ひとりにあった進路指導・支援を進めることができたか。	<p>各機関との調整や、進路学習に関連した積極的な取組を行い、適切な指導を展開できた。</p> <p>・高等部の通学支援に関する基本的な考え方をまとめ、自立と社会参加に向けた通学支援計画を作成した。高等部通学支援バスの運行を開始し、8名の生徒が利用した。</p> <p>②高等部や分教室は「進路の手引き」を活用して進路保護者会を実施した。小中学部は、卒業後の生活をイメージできるような資料をGoogleクラスルームに掲載した。「学校だより」に定期的に進路情報を掲載することで情報発信に努めた。</p>	<p>高等部通学支援バスの利用状況を検証し、次の段階の通学方法の検討が必要である。</p> <p>②卒業後に関わる制度については、情報提供した資料を今後もGoogleクラスルームに掲載し、必要な時に見返せるようにしていく。</p>	<p>スクールバスを利用したい。</p> <p>・進路に向けたアドバイスをお願いしたい。</p> <p><学校運営協議会意見></p> <p>・卒業後を見据え、様々な機関と間口の広い連携のパイプを太くしておくことが必要。</p> <p>・各機関を招いての保護者への説明会や各機関の見学会等活性化すると良い。</p> <p>・卒業後の生活をイメージできる資料や進路情報を保護者に積極的に提供できることはとても重要だと思う。</p>	<p>スモールステップで計画的に練習を重ねていく。</p> <p>②進路の手引きを見やすく改訂し、手引きを活用して進路情報の提供を行うことができた。小中学部の段階から、卒業後をイメージできるように、情報を発信していく必要がある。</p>	<p>②PTA 進路対策委員会とも連携し、小中学部の保護者への働きかけを深め、施設や企業の見学会や進路学習会の開催など、低学年からの企画を検討していく。</p>
4	地域等との協働	<p>○共生社会の実現に向け、障害のある子どもと障害のない子どもの相互理解や地域への理解を広げるために、地域と連携し、開かれた教育活動を展開する。</p>	<p>①地域資源を積極的に活用するとともに、児童・生徒が地域で活躍できる場を拡大する。</p> <p>②地域や関係機関と協力し、ボランティアを充実させる。</p>	<p>①コミュニティ・スクールを活用し、地域と連携した学びの場を検討・実践する。</p> <p>②コミュニティ・スクールを活用し、学校の教育活動を支援するボランティアを充実させる。</p>	<p>①地域と連携し、発達段階に合わせた地域での学びの場を広げるとともに、地域への障害理解を進めることができたか。</p> <p>②関係機関と協力し、ボランティアについて連携を進め、教育活動を広げることができたか。</p>	<p>①学びの場の拡充や障害理解推進について検討した。</p> <p>・高等部2年生は、東本郷ケアプラザを活用した実習や近隣店へ実習製品を置いてもらうなど地域との関わりを広める取組を行った。</p> <p>・分教室は体育祭等今までの合同行事や新栄ケアプラザでの作品展示は継続実施できた。</p> <p>・対外作品展の多くが中止となったため、ホームページに「みどり美術館」をアップし、各学部の作品を鑑賞できるようにした。</p> <p>②各区ボランティアセンターやケアプラザと連携し、農園芸班の腐葉土づくりや消毒ボランティア、分教室の外国籍生徒への学習支援ボランティアを依頼することができた。</p>	<p>①各地区のケアプラザと連携し学びの場を広げる。また、外部作品展出品だけでなく、今後もホームページの「みどり美術館」を継続する。</p> <p>②ボランティア要項を完成させ、活用していく。各学部にボランティアリストを配付し、学習支援ボランティアの要望を吸い上げ、教育活動の充実を図る。</p>	<p><保護者の評価></p> <p>・ボランティアの導入、学びの場の拡大(肯定的評価73%)</p> <p>・配付物やホームページでの情報発信(肯定的評価88%)</p> <p><保護者の意見></p> <p>・「みどり美術館」はとても良かった。</p> <p>・学校からの情報発信が乏しかった。</p> <p><学校運営協議会意見></p> <p>・地域との学びの様子をさらに発信すると、地域の人々に本校を身近に感じてもらえるのではないと思う。</p> <p>・ボランティアの実際をホームページで紹介するとよい。</p> <p>また学校が必要としている具体的なボランティアについても発信するとよいのではないかと。</p>	<p>①コロナ禍で東本郷地区の行事連携の実施が難しかった。外部作品展の多くが中止になったため、ホームページに「みどり美術館」をつくり、児童生徒の作品鑑賞の場を向けることができた。</p> <p>②ボランティア要項は素案の作成に着手することができた。各地区のボランティアセンターやケアプラザと連携し、あらたな分野のボランティアを開拓していく。</p>	<p>①コロナ禍の状況に合わせ、地域との連携方法を検討する。</p> <p>「みどり美術館」をはじめとして、障害理解推進のためにホームページを活用し、有効的な情報発信を目指す。</p> <p>②ボランティアの活動の様子や、学部や学年等のボランティアのニーズを地域に情報発信し、地域と連携しながら、教育活動の充実を目指す。</p>
5	学校管理 学校運営	<p>○安全・安心や児童・生徒の健康を第一に考え、指導体制や管理体制の構築を図る。</p> <p>○児童・生徒と向き合う時間を確保するために、働き方改革を推進し、組織的な学校運営と校務の効率化を図る</p>	<p>①地域や関係機関と連携協働し、地震・気象・感染症等様々な危機に適切・迅速に対応できる取組を進める。</p> <p>②グループリーダーを中心に校務の効率化を組織的に進める。</p>	<p>①コミュニティ・スクールを活用し、地域防災拠点との連携を深めるとともに防災対策関連行事の見直しを行う。あわせて学校医等関係機関と連携し、感染症流行防止および流行時の対策の見直しを行う。</p> <p>②各チームの業務を継続・縮小・代替・削減の視点で見直し、学校事務の効率化を図る。</p>	<p>①地域や関係機関と連携し、本校の防災対策関連行事および児童・生徒の健康安全対策を見直し、全職員で共通理解し実施できたか。</p> <p>②チームでの業務の見直しを行い、児童・生徒と向き合う時間を確保できたか。</p>	<p>①・避難訓練は、感染症対策のため規模を縮小して実施した。シェイクアウト訓練は当初の予定よりも回数が減ったが、児童・生徒が自分の身を守る行動は定着してきている。情報伝達訓練は、月に1回行った。感染症対策を講じた避難所開設訓練に人数を縮小して参加した。</p> <p>・環境巡回や環境衛生検査を実施し学習環境を整備した。コロナ禍での健康管理や緊急時の対応、感染症予防について職員に周知し保健指導の促進等を行うことができた。</p> <p>②全職員に業務改善のアイデアを募った。各チームには今年度の業務の振り返りと、次年度に向けての見直し事項の洗い出しを行った。グループや学部リーダーで学校評価アンケートを受けたアイデア会議を実施し、次年度の課題や業務について検討を進めた。</p>	<p>①情報伝達訓練は全体の達成状況があまり良くなかった為、来年度は全体への事前周知を徹底する。</p> <p>学校薬剤師と連携し校内の整備に努める。感染症予防対策をしたうえで健康管理、緊急時の対応についても周知に努める。</p> <p>②チーム業務の移管等により、学校事務の効率化を図る。</p>	<p><保護者の評価></p> <p>・地域と連携した防災体制の構築(肯定的評価88%)</p> <p>・危機管理、感染症予防(肯定的評価92%)</p> <p>・チームワークの良い学校運営(肯定的評価94%)</p> <p><保護者の意見></p> <p>・感染症対策により安心して学校に通わせることができる。</p> <p>・災害時の対応が心配。</p> <p><学校運営協議会意見></p> <p>・地域側にも養護学校に対応したシミュレーションで訓練を考える必要があると思う。</p> <p>地域を巻き込むと良い。</p> <p>・感染症対策下での防災活動の在り方については、引き続きより良い方策を模索していく必要がある。オンラインの活用や情報インフラの整備は不可避だと思う。</p>	<p>①シェイクアウト訓練を継続することで児童・生徒の身を守る行動が定着してきた。今後、感染症対策を講じながらより実践的な訓練ができるよう訓練内容を検討する必要がある。</p> <p>・緊急時の対応、感染症予防の具体的な方法等本校のガイドラインを作成し、全職員で感染症対策を実施することができた。</p> <p>②各チームの業務の見直しを行ったが、検証が必要である。</p>	<p>①緊急時に本部に集合できる教員が一定ではないことを見直し、実際の様々な場面を想定した訓練内容を検討し取り入れる。</p> <p>・本校の感染症ガイドラインを社会の状況に合わせて見直し、必要に応じて教員への周知徹底を図る。</p> <p>②各チームの課題を洗い出し、チームリーダーを中心に業務の内容の再検討を行う。</p>